水原バイパスの主な整備効果

【効果 1】円滑な走行が可能になります

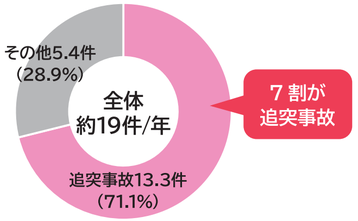
- 現道は、阿賀野市の中心市街地を通過し、慢性的な渋滞が発生しています。
- 混雑する市街地を回避することで、通勤時間の短縮、冬期の安全性確保及び通過時間の短縮、生活道路の安全性向上などが見込まれます。

安野町交差点の渋滞状況

【効果 2】安全な走行環境が確保されます

- 現道には、複数の事故危険区間があり、渋滞に起因する追突事故が発生しています。
- 通過交通がバイパスに転換することで、交通事故の減少が期待されます。

現道の追突事故状況（安野町交差点付近）

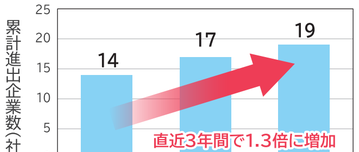


水原バイパス事業区間における事故発生状況

出典：ITARDA データ（H23 ～ R2）

【効果 3】産業及び物流を支援します

- 県営東部産業団地は、新潟中心部や新潟東港と近い位置に立地する生産拠点です。
- 阿賀野市から新潟東港や県外（新潟亀田 IC 経由）へのアクセス性が向上し、地域産業の発展と物流を支援します。



県営東部産業団地の企業進出状況

出典：県営東部団地進出企業の各社 HP 等より整理

県営東部産業団地

出典：新潟県東部産業団地パンフレット（新潟県企業局）

計画の意義

国道49号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ主要幹線道路であるとともに、阿賀野市・阿賀町と新潟市との交流を支える道路として重要な役割を果たしています。

しかし、阿賀野市の市街地を通過する現道は幅員が狭く、1 日約 2 万台の交通量があるほか、大型車の通行もあり、交通混雑や交通事故等が発生しています。また、自動車交通による交通騒音等の生活環境に与える影響が問題となっています。

水原バイパスは、市街地の交通を安全かつ円滑に処理することでこれらの問題を解消し、阿賀野市の将来のまちづくりを支援し、当該地域の発展に寄与するものです。

事業の概要

事業名	一般国道49号 水原バイパス
起終点	阿賀野市寺社～同市下黒瀬
延長	8.1km
車線数	4車線（完成）、2車線（暫定）
幅員	高盛土部　2.0-7.0-3.0-7.0-2.0(21.0m) 低盛土部　3.5-2.0-7.0-3.0-7.0-2.0-3.5(28.0m)
構造規格	第3種第1級
設計速度	80km/h

事業経緯	
平成11年3月9日	都市計画決定
平成12年4月	事業化
平成15年度	用地着手
平成17年度	工事着手
令和4年12月4日	暫定2車線開通（5.4km）

道の駅「あがの」が開駅！

- 令和4年8月5日（金）に新潟県内42番目の「道の駅」となる道の駅「あがの」が阿賀野市窪川原に開駅しました。
- 阿賀野市の魅力を様々な人々に伝え、地域活性化や防災につながる拠点として期待されています。

お問い合わせ

令和４年12月作成

国土交通省 北陸地方整備局
新潟国道事務所

〒950-0912　新潟市中央区南笹口2-1-65
TEL：025-244-2159　FAX：025-246-7763
https://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/

祝 開通

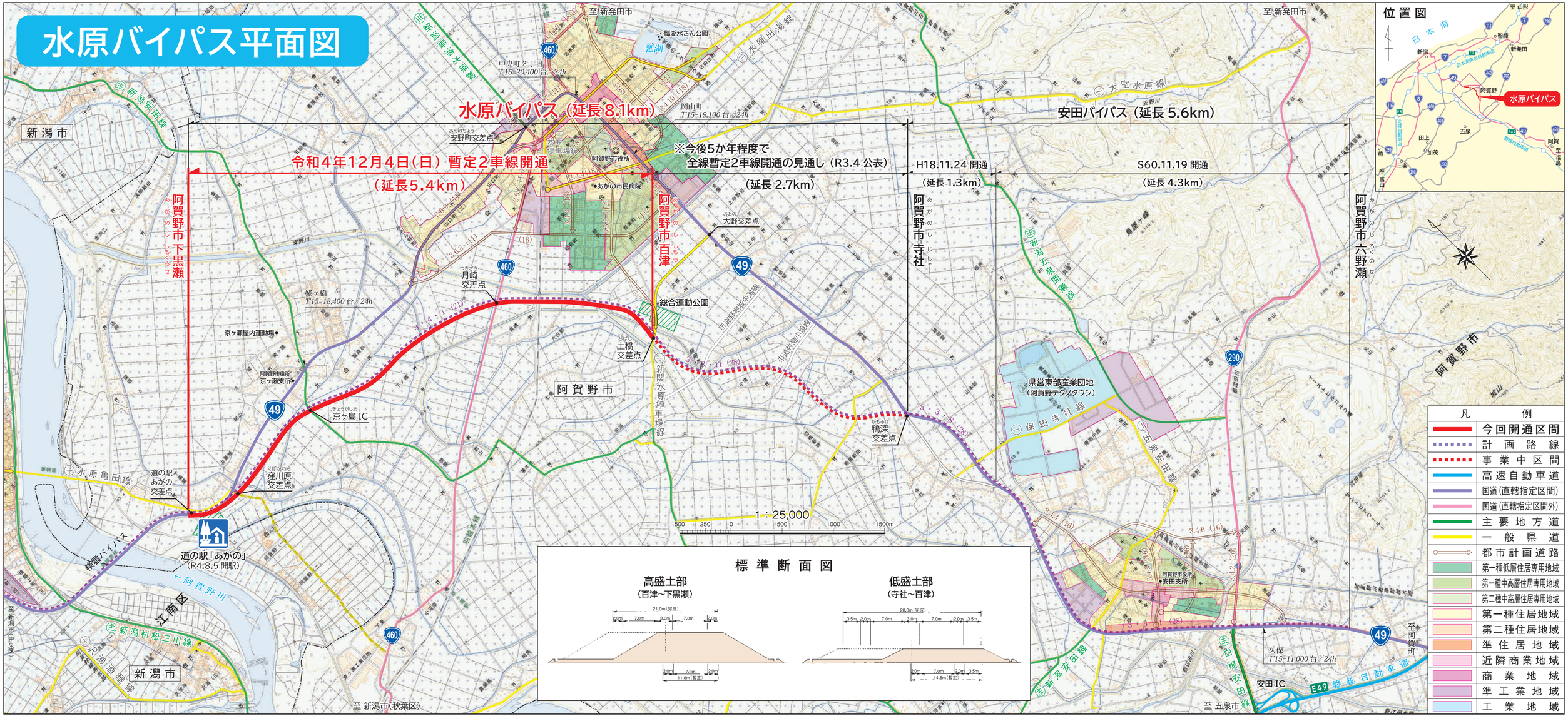
一般国道 49 号

水原バイパス

すいばら

国土交通省 北陸地方整備局
新潟国道事務所

水原バイパス平面図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。（承認番号 平 25 情複、第 932 号）

（令和４年11月16日現在）